

2025年9月1日

報道関係者各位

テクマトリックス株式会社
(東証プライム / 証券コード: 3762)

PSP、武田病院グループへの PHR サービス「NOBORI」の 導入展開を加速

当社の連結子会社（持ち株比率：50.02%）である PSP 株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：依田 佳久、以下：PSP）は、武田病院グループ（本部：京都府京都市、理事長：武田 隆久、以下：武田病院グループ）内の一部の病院ですでに導入されている PSP の PHR（Personal Health Record）アプリ「NOBORI」（以下：NOBORI）を利用できる施設を拡大し、患者向けサービスを充実させることをお知らせいたします。

具体的には、2022 年度より武田病院健診センターにて NOBORI が先行導入されていましたが、このたび宮津武田病院をはじめとする武田病院グループ内での利用施設を順次拡大するとともに、NOBORI の機能拡張を予定しています。NOBORI は、患者自身が提携医療機関から提供された医用画像や検査結果、薬などの医療情報をスマートフォンでいつでも参照することができるため、患者自身や家族の健康管理を意識し、医療をジブンゴトとして捉えることを目指した個人（一般生活者）向けのサービスである一方で、NOBORI の活用により、武田病院グループ内の病院・健診施設間での医療情報の共有がスムーズになることで医療従事者の業務効率化や健診結果の配信によるペーパーレス化の推進、医療情報のデジタル基盤としての役割も期待できます。

PSP は、医療 DX の一環として NOBORI の導入を推進する武田病院グループならびに個人の健康データを患者自身が主体的に管理することで自ら医療サービスの担い手になろうとする地域住民を支援し、健康増進とセルフケアの促進ならびに QOL（生活の質）の向上に貢献してまいります。

Press Release
報道関係者各位

2025年9月1日
PSP株式会社

**武田病院グループは医療 DX を推進、患者向けアプリを通じた地域住民の健康増進を支援
PHR サービス「NOBORI」導入により患者向けサービスを充実、医療情報のデジタル基盤を整備**

PSP 株式会社（所在地：東京都、代表取締役：依田佳久）の患者向けスマホアプリである PHR（Personal Health Record）サービス「NOBORI」が武田病院グループ（所在地：京都府、理事長：武田隆久）で採用され、医療 DX の一環としてグループ内で導入が推進されています。2022 年度より武田病院健診センターで先行導入し、2025 年 8 月時点で、康生会武田病院、医仁会武田総合病院、康生会北山武田病院でもサービス提供を開始。今後もグループ内での PHR 利用施設を拡大、機能の拡張が予定されています。

本取り組みにより、患者さんの利便性向上とグループ内外の医療情報連携に活用されることで、個人の健康データを起点とする継続的な医療支援のデジタル基盤として地域住民の健康増進に貢献します。

【DX 推進と“つなぐ医療”の実現へ】

武田病院グループのコンセプトである『医療の“点”を“線”へ - 情報と想いをつなぐ。』を実現し、地域に根ざした医療を提供するため、PHR サービス「NOBORI」導入により、以下のメリットを提供します。

- ・医療・健康情報を患者さんご自身で管理し、生活習慣病の予防や重症化の防止に活用
- ・患者を中心とする情報連携に活用、グループ内外での“つながる医療”の実現
- ・診察の待合番号表示や医療費後払い等の便利機能による利便性向上
- ・マイナポータルと連携し、予防接種や調剤履歴、医療費等の情報を一元管理
- ・健診結果配信によるペーパーレス化の推進

【武田病院グループにおける PHR 導入計画について】

2022 年に武田病院健診センターで NOBORI を先行導入し、健診結果をスマートフォンで確認・保存できるようになりました。

2024 年度以降、康生会武田病院、北山武田病院で順次導入され、2025 年 8 月現在で武田病院グループにおける PHR 利用者は 3 万人を超えています。現在、宮津武田病院・宇治武田病院などでも導入に向けた準備を進めており、DX 推進と“つなぐ医療”の実現に向けて、以下グループ医療機関での導入、機能拡張を予定しています。

<PHR 導入計画>

施設名	導入時期	検査結果	健診結果	通院予定	予約（診療・健診）	問診機能	画像検査	処方情報	医療費後払い	待合番号表示
武田病院健診センター	2022年10月		○	○	○	○	○			
康生会武田病院	2024年3月	○					○	○		
北山武田病院	2025年8月	○		○			○	○		
医仁会武田総合病院	2025年6月	○		○	○			○	○	○
宮津武田病院	2025年9月予定	○	○	○	○		○			
宇治武田病院	2026年春頃予定	検討中								
十条武田リハビリテーション病院	2026年内予定	検討中								

【コメント】

武田病院グループ 理事長 武田 隆久

「医療は人と人との信頼関係の上に成り立っています。デジタル化が進む今だからこそ、私たちは“便利になること”そのものよりも、“信頼とつながりを深めること”に焦点を当てなければなりません。今回採用した『NOBORI』は、医療機関主体ではなく利用者中心に設計され、診療記録・健診結果・マイナンバー連携データなどを包括的に管理できるなど、PHR に求められる本来の機能を備えている点が決め手となりました。

この導入は、単なる技術革新ではなく、患者さんが自らの健康情報を理解し、日々の暮らしと医療がより自然につながるようにするための手段です。情報が“医療者のもの”だった時代から、“患者さん自身のもの”へと変わる。それは、医療の主役が誰かという問いに、あらためて向き合うことでもあります。

このような PHR を活用した取り組みが、グループや医療機関の枠を超えて、京都府内の病院全体で広がっていくことが、これからの地域医療に不可欠だと強く感じています。診断や治療だけでなく、日常生活の中に医療が寄り添い続ける環境を整えていきたい。そして、地域の中で、顔の見える医療が、テクノロジーと共に生きていく。そんな未来を、地に足をつけて築いていきたいと考えています。」

武田病院グループ 本部 健診企画部（PHR 推進担当） 西村 正樹

「PHR の導入は、患者起点の情報管理による“分散された医療データの統合”を可能にする取り組みです。今回当グループで導入を進めている『NOBORI』は、健診結果や診療情報を患者本人が日常的に活用できる環境を提供するとともに、グループ内の病院・健診施設間での情報共有を強化し、連携型の医療提供体制を支えるインフラの一端を担うものと位置づけています。

また、本アプリはマイナポータルと連携し、予防接種や調剤履歴、医療費などを患者自身が一元管理できる機能を備えています。これにより、健康管理や受診判断の質が向上し、医療情報を主体的に活用できる環境が整いつつあります。

PHR は、2030 年に向けた政府主導のカルテ情報共有を支える手段として、画像データや検査情報など共有対象外の医療情報を補完・活用するうえで非常に有効だと考えています。

私たちは医療 DX を単なる業務改善ではなく医療の質的転換の手段と捉えています。今後も医療の現場から政策と接続する視点を持ち、地域医療の高度化と持続可能な医療体制の確保に貢献してまいります。」

■ 武田病院グループについて

武田病院グループは、京都府下に展開する地域密着型の医療・福祉グループで、8 病院を中心に健診施設を含む多数の医療・介護・福祉施設を有し、地域住民の健康と生活を多角的に支えています。

■ PSP 株式会社について

PSP は、医用画像管理システム（PACS）の開発、販売を主力事業としています。全国に約 2,300 施設の顧客を有し、稼働施設数ベースでは国内の 22%超のシェアを有しています。今後、市場における PACS シェアの拡大のみならず、製品・サービスを統合・集約することにより、システム開発の効率化を推し進め、更に AI 関連事業、一般利用者向けの PHR サービス、医療データ利活用事業等、新規サービスの展開を加速して参ります。

お問い合わせ

武田病院グループ

担当：本部 健診企画部

Mail：kenshin-web2@takedahp.or.jp

TEL：075-365-0831

PSP 株式会社

担当：新規事業開発部

Mail：new-biz-dev_div@psp.co.jp